

年 組 名前：

風林火山

新500円硬貨が21年ぶりに発行された。偽造を防ぐため2色3層構造で、硬貨の縁の内側に小さな文字で「500YEN」と記されている。側面に刻まれたギザギザの間隔は部分的に違うという▼ATMや鉄道の自動券売機はほぼ改修を終え、大手コンビニも対応が進むが、路線バスの運賃箱は非対応が多く注意が必要。とはいえ旧500円硬貨は約50億枚流通しており、今年度の新硬貨発行は2億枚というから、まだ手にする機会は少なそうだ▼「100万貯まる」など500円玉専用の貯金箱がさまざまな商品としてあるように、「500円貯金」を習慣とする人もいる。落ちた瞬間チャリンと鳴る他の硬貨より少し重みのある音が、やる気を高めてくれる▼近年、電子決済が普及し、現金を持ち歩かない人も多いのでは。小銭やカードで分厚くなった財布でスポンのポケットが膨れていたのは今や昔の光景か▼ただ危うさもある。NTTドコモで携帯電話の通信障害が発生した先月、電子決済サービスが利用できなくなった。駅や店舗で支払いができず困惑する人が続出した▼災害時は電子決済やATMはおろか、レジも使えず釣り銭が出せない状況となり得る。水や食料は無論、紙幣や硬貨を多少なりとも備蓄しておいた方がよい。今やお年玉や小遣いを電子マネーで済ます家庭もあるが、お金のありがたさを学ぶ教育的効果は薄れるかも。目新しい500円に替えてみては。(口)

(2021年11月5日付 山梨日日新聞 1面)

問1

新500円玉に施されている偽造を防ぐ対策を3つ挙げてください。

-
-
-

問2

コラムの筆者は、電子マネー決済にはどんな危うさがあると指摘していますか。

.....

.....

問3

アナログ(紙幣・硬貨)社会からデジタル(電子マネー)社会へ変わりつつある現状について、あなたはどのように思いますか。書いてください。

.....

.....

.....